



生徒たちの話に耳を傾ける岩本さん(左端)
 横浜市立戸塚高校の定時制進路指導室

定時制 夢と生活と

厳寒

横浜市立戸塚高校定時制(戸塚区)の4年生、武田晋也さん(19)。「仮名」には「授業を大切にできた」との自負がある。学費はおしほりの検品作業のアルバイトで稼いできた。

「最初は4年間通えるかという不安があった。一時は進学を夢見たが経済的理由で断念。バイトの合間

就活生

①

の就職活動で、地元メーカーから内定を得た。

全日制高校に届かなかつたり他校を中退したりと、壁を経験してきた定時制の生徒たち。余裕の乏しい中、昼間は働く。だが足元の不況が企業の厳選志向を加速させ、人柄が重視された選考基準に「学力」が加わった。全日制生徒との競争で、正業にたどり着けない例が昨年度は相次いだ。既卒者になれば正社員への道はさらに険しさを増す。

本年度の新卒予定者は約80人。最終的に就職を目指す

すのは20人余りだ。学校は3年の夏から、基礎学力強化に本腰を入れた。百マス計算、数学ドリル…。4年担任の藤本やえみ教諭は「やればできるという自己肯定力と集中力を付けさせるようにした」。不安を抱える生徒には、若者支援の社会事業を手掛けるK2インターナショナルチャパン(磯子区)からカウンセラーが学校を訪れ、相談に乗る。

木村秀人さん(18)「同」は日中、商業施設で清掃アルバイトに汗を流す。同僚

は50〜60代。自分の父親ぐらいの人も懸命に働く。年配者と接する仕事への関心が高まり、11月からはデイケアの就労体験を始めた。

「高齢者からかわいがってもらえるのが楽しい」。卒業後も福祉施設で働きたいと願う。

K2のカウンセラー、岩本真美さんが助言した。「希望の就職ができればいいね。でも卒業後、アルバイトを続けて生活を保つのも大切と思うよ」

自力で生計を立てなければならぬ日々の中で、就労への夢を描く高校生。夜の校舎に集う期間は、残り4カ月余りだ。

23面に続く